

地位の真理

この学び全体のアウトラインと本日の内容

1. イントロダクション（総論 七つの項目）
2. 各論 33の事柄
3. 結論

2017年6月から2018年2月までに、各論の第32「神にアクセスすることができる者である」までを学びました。

本日は、第33「神からの特別なケアを受ける者である」と結論を扱います。地位の真理に関する一連の学びの最終回です。

4月の福岡集会はお休みです。中川先生による「一日セミナー」（4月28日）へのご参加をお勧めします。

イントロダクション（総論 七つの項目）の要点

1. キーワードは、「キリストにあって」「イエスにあって」「イエス・キリストにあって」「キリスト・イエスにあって」「彼にあって」「その方にあって」
2. 信者が持つ地位と実際の生活との関係
 - (1) 信者が持つ地位（メシアの中にあるという地位）と、それにつながる33の事柄は、神の目から信者を見たときの真実である。
 - (2) 信者の実際の生活を人間の目から見ると、そういう地位にあるようには見えない。
 - (3) 信者の人生における歩みを、信者の持つその地位にふさわしいものにしていくこと、これは聖霊の働き「聖化」である。
 - (4) サタンや悪霊との戦いにおいては、信者の実際の生活がどうあるかではなく、メシアの中にある地位とそれに伴う権威によって対抗する必要がある。
3. その地位につくための経路は、聖霊のバプテスマである（Iコリ12:13）。
4. その地位が与えられた源は、神の恵みである（エペソ1:6、2:7）
5. その地位は、信者の権威の基盤である（エペソ1:18~19）
6. その地位に伴う権威を行使することは、サタンに対する最良の防御である。
7. 「キリストにあって」というキーワードと並んで、メシアと信者との関係を教える重要な表現「キリストと共に」・・・神の目から見たとき、信者はメシアと同一の者と見られている。十字架からスタートして全部で8つの展開【キリストと共に、十字架につけられた・死んだ・葬られた・生かされた・復活させられた・苦しんでいる・栄光を受けるであろう・共同相続人となるであろう】。そのすべてが、救いの結果である。神の恵みであって、人の働きではない。

各論 33の事柄・・・前回までに 第1から第32

1. 神によって贖われた者である
2. 神と和解させられた者である
3. 神の怒りはなだめられており、神は私に怒ってはおられない
4. 神から赦しを受けている者である
5. 神から義と認められた者である
6. 神からの栄光を受ける者である
7. 闇の支配から解放された者である
8. 心の割礼（キリストの割礼）を受けた者である
9. 神に受け入れられる者である
10. 聖霊の初穂（初なりの実）をいただいた者である
11. 神の永遠の計画の中にある者である
12. 岩なるメシアを土台として立つ者である
13. アブラハム契約に近い者とされた【異邦人信者にとって】
14. 聖なるそして王なる祭司のメンバーとされた
15. 神の国に移された者である
16. 選ばれた種族、聖なる国民、神の所有とされた民【ユダヤ人信者にとって】
17. 天の市民である
18. 神の家族である
19. 神から愛され、養子とされた者である
20. 神の子たちである
21. 聖徒たちの交わりの一員である
22. 主にあって光、光の子たちである
23. 天と連帯する者である
24. 完全な者である
25. すべての霊的祝福を所有している
26. 父なる神から子なる神への贈り物である
27. メシアの相続財産である
28. メシアとの共同相続人である
29. 律法から自由にされた者である【ユダヤ人信者にとって】
30. 古き人（罪の性質）はすでに裁かれており、新しく歩むことのできる者である
31. 父・子・聖霊に結び合わされている者である
32. 神にアクセスすることができる者である

本日の内容 各論第 33 と結論

33. 神からの特別なケアを受ける者である
- (1) ルカ 12 : 24 「鳥（からす）のことを考えてみなさい。蒔きもせず、刈り入れもせず、納屋も倉ありません。けれども、神が彼らを養ってくださいます。あなたがたは、鳥（とり）よりも、はるかにすぐれたものです」

(2) この地位には7つの面がある。①～⑦

① 信者は、**神の愛**の対象である

- ヨハ 17:23 あなたがわたしを愛されたように、彼らをも愛された
- ロマ 5:8 神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられる
- ロマ 8:35～39 私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできない
- エペ 2:4 神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに
- エペ 5:2 キリストもあなたがたを愛して
- IIテサ 2:16 私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった
- Iヨハ 3:1 御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことか
- Iヨハ 3:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになった。それによって私たちに愛がわかった。
- Iヨハ 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされた。ここに愛がある。

② 信者は、**神の恵み**の対象である。32番目の事柄の中に「神の恵みにアクセスすることができる」とあったが、信者は、神の恵みにアクセスできるだけでなく、神の恵みの対象そのものでもある。神の恵みは、4つの分野で信者に与えられる。

- **救い**における恵みの対象：神は、ご自身の恵みによって、信者を救った。
ヨハ 5:24、6:27、39、40、47、エペ 2:5～9、Iヨハ 5:11～13
- **保護**における恵みの対象：ロマ 5:2 恵みの中に私たちは立っている、
ピリ 1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる
- **奉仕**における恵みの対象：信者が神に仕えることができるのは、恵みの産物である。ヨハ 17:18 わたしも彼らをこの世に遣わしました、エペ 4:7 私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられた
→4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになった。
- **導き**における恵みの対象：神は、恵みによって、信者を教え、指導する、
霊的な真理に関して。テト 2:11～13 すべての人を救う神の恵みが現れ、
私たちに・・・ようにと、教えさとした。

③ 信者は、**神の力**の対象である。神の力は、しばしば、聖徒たちを通して、現される。エペ 1:19 私たち信じる者に働く神のすぐれた力④ 信者は、**神の真実**の対象である。信者は、神の真実を受け取る。信者の側はときとして不真実であるとしても、神は決して不真実ではない。信者は、偽ることのない神の真実を受け取る。

- Iコリ 1:9 神は真実であり、・・・キリストとの交わりに入れられた
- Iコリ 10:13 神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試

練に合わせることはなさない

- ピリ 1:6 良い働きを始められた方は・・・それを完成させてくださる
 - Iテサ 5:24 あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださる
 - IIテサ 3:3 主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってください
 - ヘブ 13:5 金銭を愛する生活をしてはいけない。今持っているもので満足せよ。主ご自身がこう言われる。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」
- ⑤ 信者は、**神の平和**の対象である。神の怒りはすでになだめられており、神はもはや信者について怒ってはおられない。信者は、神の平和（神の平安）を持っており、神は信者のうちに住まわれる。
- ヨハ 14:27 わたしは、あなたがたにわたしの平安を与える。
 - ヨハ 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためである。あなたがたは、世にあっては患難がある。しかし、勇敢であれ。わたしはすでに世に勝った。
 - ロマ 5:1 私たちの主イエス・キリストによって（を通して）、神との平和を持っている。
 - ピリ 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれる。
 - コロ 3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにせよ。
- ⑥ 信者は、**神の慰め**の対象である。たとえば信者が家族や友人を失って悲しみに沈んでいるとき、神はその信者に慰めを与えてくださる。信者は、いつでも、神の慰めの対象である。
- IIコリ 1:3 ほめたたえられますように、私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神。
 - IIコリ 1:4 神は、どのような苦しみのあるときにも、私たちに慰めてくださる。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができる。
 - IIコリ 7:6 気落ちした者を慰めてくださる神
 - IIテサ 2:16~17 私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、・・・あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。
- ⑦ 信者は、**神のとりなし**の対象である。それゆえ、メシアは信者のためにとりなしてくださる。
- ロマ 8:27 御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださる
 - ロマ 8:34 キリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただく

- I テモ 2:5 神は唯一である。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスである
- ヘブ 7:25 ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになる。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられる
- I ヨハ 2:1 もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには御父の前で弁護する方がいる。義なるイエス・キリストである

結論

1. 信者は誰でも、信じて救われたそのときに、「イエス・キリストにあって〇〇」という地位が与えられる。「〇〇」には当てはまる事柄は、33 ある。
 - (1) 「イエス・キリストにあって〇〇」という地位は、信者が信じて救われたその瞬間に与えられる。そして、その地位の意味内容を聖書から整理すると、33 の事柄になる。
 - (2) この地位とその意味内容である 33 の事柄すべてが、信じて救われたときに与えられている。信者がその後の信仰生活の中で、必要な経験を積むとか、祈っていたとか、そのようなプロセスを必要とするものではない。
 - (3) 信者が、この地位を理解することは、とても重要である。その理解があつてはじめて、信者は自分の地位に伴う権威がどのようなものか、知ることになる。もし知らなければ、その権威を行使することなど思いも及ばない。
 - (4) サタンと悪霊の組織に対抗する霊的な戦いの場で、信者にとって最善の防御は、自分に与えられている権威を行使することである。したがって、霊の戦いに対処するために、まず備えるべきは、「イエス・キリストにあって〇〇」という信者の地位を、みことばにより理解することである。
2. 霊の戦いには、3つの前線がある。肉、世、そしてサタンと悪霊の組織である。いかなる戦闘でも、それぞれに異なった状況があり、異なった戦法があり、用いる武器もそれに応じて変わる。
 - (1) 3番目の前線、サタンと悪霊の組織を相手とする戦いに関する限り、最善の防御は、地位の真理を理解することである。
 - ① 「イエス・キリストにあって〇〇」という信者の地位とは何か、聖書のみことばによって理解する。
 - ② その地位に伴う権威がわかる。
 - ③ その権威を行使する。
 - (2) サタンが信者を責めるとか、攻撃を始めたなら、信者は神のことばに立つことができる。決して、自分の長所の上に立たないように。自分の義により頼んでは、サタンに対抗できる信者は一人もない。
3. 信者は、「メシアにあって〇〇」という地位の上に立つ者である。そして、メシアの義が自分に転嫁されているという事実の上に立つ者である。